

vol. 271

Summer 2022

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

# Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

## Contents

### 02 新たな智を生み出す新研究組織

石井クンツ 昌子 理事・副学長  
(研究・国際交流・男女共同参画担当)  
インタビュー

### 06 学生のアクティビティ

STUDY FOR TWO お茶の水女子大学支部

### 08 教員紹介

加藤 夢三 先生  
基幹研究院人文科学系 助教

### 09 卒業生紹介

中里 葉奈 さん  
お茶の水女子大学理学部物理学科 卒業

### 10 附属学校園からのお知らせ

附属いずみナーサリー

# 新たな智を生み出す 新研究組織



お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションとして、これを実現するために2022年度より3つのビジョンに基づき研究組織をみなおしました。今回は、新しくなった研究組織体制についてご紹介します。まずは、研究・国際交流・男女共同参画ご担当の石井クンツ理事・副学長にお話を伺います。

## 「社会との共創」を目指した これからの研究所

赤松：今日はお時間をとっていただき、どうもありがとうございます。2022年度から、研究組織体制が新しくなりました。今日は、新しくなった研究組織体制について、お伺いしたいと思います。まずは、新しい研究組織の全体像を教えてくださいませんか。

石井：お茶の水女子大学は、国立大学法人法に基づき、2004年度の法人化以降、6年ごとに中期目標・中期計画を立て、大学を運営しています。今年度から、第4期中期目標期間（2022年度～2027年度）が始まりました。第4期のミッションに向けて、「ジェンダー・イノベーション研究所」「コンピテンシー育成開発研究所」「SDGs推進研究所」の3つの研究所が加わり、4機構のもと10の研究所を発足させました（図1）。

赤松：全部で10の研究所になったのですか。

第4期のミッションとは、具体的にどのようなものですか。

石井：お茶の水女子大学は、法人化以降、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションに掲げています。そこで、第4期では、「グローバル女性リーダーの育成」をミッションとして、また、「女性が活躍できる社会の実現」「総合知を持ち社会を革新する人材の養成」「持続可能な社会実現のための研究推進」の3つをビジョンとして掲げました（図2）。

赤松：新しく加わった「ジェンダー・イノベーション研究所」「コンピテンシー育成開発研究所」「SDGs推進研究所」は、それぞれ、3つのビジョンにそって発足したということですね。

石井：そうです。そして、グローバル女性リーダーの育成に向けて、大きく3つの戦略をたてて大学運営に取り組んでいきます。その戦略が「社会との共創」「教育」「研究」の3つです。

赤松：戦略ごとに研究所が決まっているのですか。

石井：いいえ。この研究所が「教育」この研究所が「研究」と決まっているわけではなく、この3つの戦略はすべての研究所に関係しています。もちろん、研究所によっては、3つの戦略の1つの比重が大きい研究所もあるかもしれません。

3つの戦略のうち、特に力を入れているのが、「社会との共創」です。たとえば、グローバル女性リーダー育成研究機構をみると、まず、グローバルリーダーシップ研究所は、リーダーとなる女性を育成するというミッションを掲げ、リーダーシップ養成に関する研究と教育を行っています。「お茶の水女子大学論」などは学生向けですが、德音塾はリカレント教育

として、一般の女性を対象に、講座を開講し、社会に貢献しています。2つ目のジェンダー研究所は、本学で一番古い研究所であり、ジェンダーに関する学術的な研究を中心に活動していますが、学術雑誌『ジェンダー研究』を発行したり、一般の方々も参加できるシンポジウムを開催したりして、社会貢献を行っています。そして、3つ目、ジェンダー・イノベーション研究所は、ジェンダー差の視点を取り入れ、研究成果をもとに、イノベーションを創出し、製品やサービスとして、社会に還元していくことを目指しています。このように、グローバル女性リーダー育成研究機構の3つの研究所をみても、社会との共創は各研究所の活動の中に含まれています。

赤松：確かに、どの研究所も、社会とのつながりはありそうですね。

石井：これまで、大学の研究は、下手すると、研究のための研究になっていました。これからは、我々の研究成果を社会に還元していかないとはいけません。それには、産官学連携を強める必要があります。企業や他大学との連携を積極的に行っていきたいと思っています。

赤松：他機関と連携していくうえで、お茶の水女子大学の強みは何ですか。

石井：お茶の水女子大学は、理系女性が多い、女性研究者が多いといった点が強みであると言えますが、同時に私は本学が小規模大学であることも大きな強みだと思います。大規模大学だと横の連携が難しいと思いますが、お茶の水女子大学ぐらいの規模であれば、様々な課題に対して一致団結して取り組むことができると思っています。また、女子大学ならではの女性リーダー育成の環境が整っているということも強みです。学生のポテンシャルも高く、アントレプレナーシップを実践してすでに起業したという学生もいるくらいです。このように、学生のポテンシャルを伸ばせる環境は本学の強みの一つですが、これからはもっと充実させることが望まれていると思います。

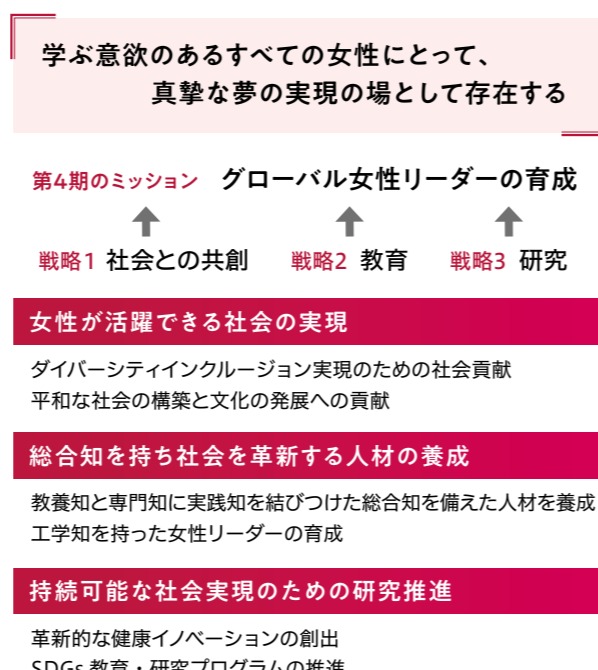
赤松：お茶の水女子大学の強みをいかし、産官学連携ができれば、社会への貢献が一層進めることができそうですね。本日はどうもありがとうございました。

聞き手：赤松 利恵

広報・学術情報担当副学長、広報推進室長  
基幹研究院自然科学系 教授



■ 図1 研究組織体制の全体像



■ 図2 第4期中期目標・中期計画

## 石井クンツ 昌子

理事・副学長

(研究・国際交流・男女共同参画担当)

2021年度より現職。お茶の水女子大学 名誉教授。専門は、家族社会学、ジェンダー社会学



## vision 1 女性が活躍できる社会の実現

## グローバル女性リーダー育成研究機構

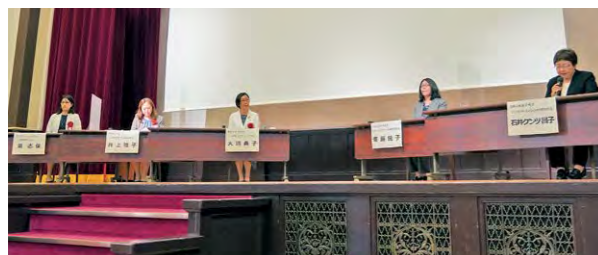
ジェンダード・イノベーション研究所 NEW

所長 石井クンツ 昌子 理事・副学長

本研究所は、これまで主に男性目線で開発されてきた製品やサービスに対して、ジェンダー差の視点を取り入れ、女性にやさしい技術開発を推進します。ジェンダード・イノベーションには、多様性と包括性をもつ自然・応用科学および社会科学分野の研究と成果の発信が必要であり、産官学の連携は必須です。このような活動を通して、本学の強みであるダイバーシティインクルージョンを拡大させ、女性の活躍促進やウェルビーイングの向上に貢献します。ジェンダード・イノベーション研究所は日本初であり、本学が世界の女子大学におけるジェンダー・リーダーシップ・イノベーション研究のハブ組織となることを目指しています。

## Topics

世界的な流れのなかで、我が国においてもジェンダード・イノベーション研究の必要性が謳われているところです。ジェンダード・イノベーション研究を産官学連携と結びつけ、社会で具体的な成果を上げることを企図し、2022年6月17日(金)にはキックオフシンポジウムを開催されました。



## グローバルリーダーシップ研究所

所長 基幹研究院人間科学系 小林 誠 教授

グローバルな視野をもって多方面に活躍する女性リーダーの育成のための教育・研究を行っています。

また、さまざまな大学の男女共同参画の実態を数量的に分析しています。

## ジェンダー研究所

所長 基幹研究院人文科学系 戸谷 陽子 教授

1975年設立の女性文化資料館を前身とし、時代とともに日本におけるジェンダー研究・教育の基盤を築いています。

## vision 2 総合知を持ち社会を革新する人材の養成

## 総合知開発研究機構

コンピテンシー育成開発研究所 NEW

所長 坂元 章 理事・副学長、附属学校部長

社会において高い業績をあげる人に観察される特性をコンピテンシーの定義は、OECD(経済協力開発機構)のものが(図)。近年の教育では、アカデミックな学力の獲得から、コンピテが置かれつつあります。本研究所は、コンピテンシー・ベースの教養を、大きく分けて2つの活動を行います。1つは、教学マネジメント組織として、本学関係として、幼児期からとです。これらの取り組みによって、本学のみならず、全国の他機関の教育改革に資する

ンシーといえます。よく知られています。コンピテンシーの向上に重みと研究の推進に向けた組織として、本学関係として、幼児期からとです。これらの取り組みによって、本学のみならず、全国の他機関の教育改革に資する

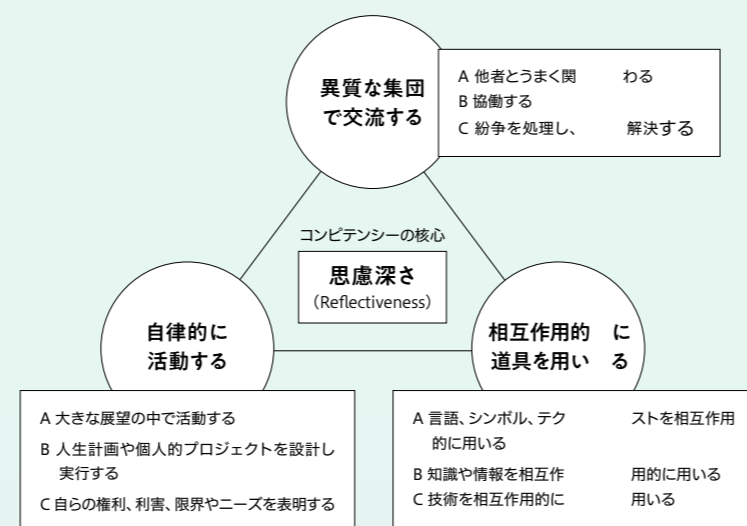


図 OECDの「コンピテンシーの定義と選択(DeSeCo)」プログラムで示された(出典:国立教育政策研究所「キー・コンピテンシーの生涯学習政策指標としての活用可能

キー・コンピテンシー性に関する調査研究)

## 理系女性育成啓発研究所

所長 加藤 美砂子 理事・副学長

女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成に資することを目的として発足し、多様な取組を行うことで、理工系女性の活躍の促進に繋がり、未来を支えることを期待しています。



## サイエンス&amp;エデュケーション 研究所

所長 基幹研究院自然科学系 千葉 和義 教授

科学文化の醸成を目指し、理科・科学教育とサイエンスコミュニケーションの研究実践活動を行っています。

## vision 3 持続可能な社会実現のための研究推進

## サステナブル社会実装機構

SDGs推進研究所 NEW

所長 藤原 葉子 副理事(同窓会・SDGs担当)

本研究所は生活科学・生活環境学・ジェンダーなどを研究テーマとする教員で組織され、食品ロスや食糧問題、資源のリサイクル、エコシステムや、行動科学、消費者教育などを中心に、生活者起点から持続可能な社会への貢献を目指した研究を推進します。これらを通して大学や大学院で教育実践するだけでなく、ナーサリーから幼小中高まで同一キャンパスにある地の利を生かし、幼少期から大学までのSDGs一貫教育プログラムの開発も目指しています。また、本研究所は本学のSDGs実践活動を統合する拠点として、地域社会・企業や自治体等との連携調整を担う機関でもあり、共同研究やインターンシップなどを通して活動支援を行っていきます。

## Topics

教育プログラムの開発に先駆けて、2021年度リベラルアーツ(LA)演習科目で、「持続可能な未来の食を考える」を行いました(担当教員:藤原葉子副理事)。学生たちが附属小学校の栄養教諭と話し合いと試作を重ね、実際の学校給食として提供しました。附属小学校の子どもたちにとっても、地球環境という視点から食材をみつけるきっかけになりました。

地球を守る!  
大豆ミートのライカレ

## 湾岸生物教育研究所

所長 基幹研究院自然科学系 清本 正人 教授

湾岸域の生物と環境に関する研究と教育を推進し、フィールド・フロントエンドでの教育活動を通して、社会の自然科学や環境に対する理解を深めることを目的としています。

## ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

## ヒューマンライフサイエンス研究所

所長 藤原 葉子 副理事(同窓会・SDGs担当)

生化学、栄養科学、遺伝学等をテーマとする研究者で組織され、人が生涯を通じて健康で心豊かな生活を過ごすことを目標とし、少子高齢化社会における諸問題に対して「こころ」と「からだ」の両面から研究をおこなっています。

人間発達教育科学研究所と共に、全6巻のQ&A集を作成しました。



## 人間発達教育科学研究所

所長 基幹研究院人間科学系 大森 美香 教授

人間の発達や教育に関する総合的で国際的な研究拠点を目標し、研究活動を推進しています。各ライフステージの「こころ」と「からだ」に関わるさまざまな研究を行い、国内外に発信しています。

担当:西村 純子 基幹研究院人間科学系 准教授

# 学生の アクティビティ

お茶の水女子大学支部へ  
インタビュー!



STUDY FOR TWO (通称SFT)は、「勉強したいと願うすべての子どもたちが勉強できる世界に」という活動理念を掲げ、寄付していただいた使い終えた教科書を半額以下で再販売し、生まれた利益の80%以上を開発途上国の子どもたちの教育支援に充てている全国的な組織です。

お茶大支部は2012年より学内で活動しており、今年で10年目を迎えます。  
支部長 小川 祐奈さん(2年)、副支部長 川口 采紗さん(2年)、  
会計 相曾 圭さん(2年)、前支部長 小野 春香さん(3年)に  
お話を伺いました。

## はじめに、普段の活動について 教えてください。

**お**茶大支部は、今年の春時点で約20名ほどの支部員が所属しており、現在は週に一回のミーティングを中心に活動しています。入学以前から教育支援、貧困、格差、ボランティアなどに関心があった学生だけではなく、新歓でのお茶大支部の雰囲気惹かれて所属を決意した学生もいます。支部員一人ひとりが活動に目的意識をもって参加し成長し続ける、魅力溢れる組織です。  
一年を通じて、寄付していただいた教科書の回収や状態確認、在庫整理等をおこなっており、学期始めのタイミングに合わせて半額以下で再販売しています。また、対面開催されていた年度の微音祭では、以前

支援していたラオスの郷土料理風の料理をつくって屋台を出したり、古本市のように、教科書と一緒に寄付いただいた文庫本を販売して出た利益を開発途上国へ寄付する取組みも行っていったようです。

## 最近の活動の中で心に残っている ことはありますか。

**今**年の4月には、学内の附属図書館西エントランス前にて教科書の露店販売を行いました。昨年の秋まではオンライン上で販売



し、アンケートを活用するなどの工夫もしていましたが、対面形式では直接購入者の声を聴き、お礼をお伝えすることができて嬉しく思いました。また、自分たちが積み上げてきた思いや活動が届いていることを実感することもできました。

日本にいなが間接的に開発途上国支援をしており、特にこのコロナ禍では支援先を直接みるのが叶わず、自分たちの活動は本当に役に立っているのか、悩んだこともありました。多くの教科書を集めて

販売することだけではなく、その先にある活動理念をしっかりと意識しながら、時には前例にとらわれすぎず新たな支援の方法に挑戦するなど、創意工夫を重ねていきたいです。

## これから挑戦したい目標や、 将来の展望について

**お**茶大支部のこれまでの実績として、春の教科書販売を含めた累計寄付金額はおよそ186万円以上となりました(2022年5月時点)。これはひとえに、SFTの理念にご賛同いただき、ご寄付やご購入、公式SNSへのリアクションなど、お茶大生の皆さまの様々な形でのご協力があったことで、本当に感謝しています。支部員それぞれが学業や他の活動にも力を入れている中、一人ひとりが得意な分野で貢献しようと努力し、互いに良い刺激を与え合いながら成長しているのがお茶大支部の強みですが、支部としても、個人としても、SFTを創っていくことができるような活動ができればと思います。これからもお茶大生の皆さまに国際協力を身近に感じていただくと共に、SFTが、教科書を購入する際の選択肢のひとつであり続けられるよう、活動を積み重ねて団体としての信頼を獲得していきたいです。

## 最後に一言お願いします。

**私**たちの活動にご理解・ご協力くださるお茶大生の皆さま、支えてくださるすべての方々に改めて感謝申し上げます。SFTは、半額以下の教科書で日本の大学生が、その利益の80%で開発途上国の子どもたちが、より教育を受けやすいような環境をお届けしています。教科書を買う際には、ぜひ図書館前の露店に一度お立ち寄りください。多くのお茶大生にSFTという団体や活動内容について知っていただき、その上で、お茶大支部だからこそ教科書を寄付・購入して協力したい、と思っていただけるよう歩みを進めてまいります。今後とも、SFTお茶大支部をどうぞよろしくお願いいたします。



### ■ 年間予定スケジュール

4月	教科書販売・新歓活動	10月	
5月	新歓活動	11月	微音祭
6月		12月	
7月		1月	
8月	教科書回収	2月	教科書回収
9月	教科書販売	3月	教科書販売

### ■ 教科書回収

大学本館入口などの学内各所や、SCC 寮などに回収BOXを設置



### ■ SFTメンバー



### ■ 販売方法

Instagramの活用や、附属図書館西エントランス前にて露店販売など

SFTお茶大支部 Instagram



STUDY42.OCHA

SFTお茶大支部 Twitter



# 教員紹介

Interview

## 加藤 夢三 先生

基幹研究院 人文科学系 助教

### Profile

東京都出身。早稲田大学文学部卒業後、同大学大学院教育学研究科に進み、博士(学術)の学位を取得。2021年4月に本学に着任。同年、『合理的なものの詩学——近現代日本文学と理論物理学の邂逅——』で全国大学国語学会賞受賞。



「テキスト」に関わる

何でも屋になること

Yumezo Kato

### Q1 ご専門の研究についてお話を聞かせてください

専門は、いちおう日本のモダニズム文学ということにしていますが、その具体的な中身は、一般的なイメージと多少異なるかもしれません(どの分野の学問もそういうものかもしれません)。

おそらく多くの方が文学研究という営みに抱いているイメージは、ある有名な小説・詩歌作品を深く読み込み、その作家が遺した日記や書簡などの周辺資料も参照しつつ、あるべき解釈の可能性を探っていくようなものではないかと思います。それは、確かに文学研究の重要な仕事のひとつですが、しかしそういった特定の作家・作品分析だけがその全てではありません。ある「テキスト」(とりあえずは、言語資料を中心とした情報の集積のこと)の可能性を探っていく試みは、いずれも広義の文学研究の範疇に含まれると僕は考えています。僕自身、これまでは文学者を含めた戦間期の人文系知識人たちが、同時代の先鋭的な哲学や科学思想をどのように享受し、どのように「誤読」(人文系の学問にとって、それは必ずしもネガティブな意味ではありません)したのかを主に研究してきました。その解明には狭義の文学作品だけでなく、行

政文書や娯楽雑誌、街頭のチラシに至るまで、同時代に形成されていた言論空間の総体を見ていく必要があります。そういう「テキスト」に関わる何でも屋になることが、僕にとっての文学研究者のあるべき姿です。

### Q2 ご専門を選択したきっかけをお聞かせください

10代の頃は、決して文学青年というわけではありませんでした。どちらかと言うと当時は哲学に興味・関心を持っていて、哲学に関わる本を沢山読んでいた記憶があります。思春期を迎えた多くの人間がそうであるように、僕もまた自分が生きることの意味だとか、世界が存在することの意味だとかを真剣に考えていて、そういう問いへの手がかりを与えてくれるものとして本を読み、映画やアニメを観て、音楽を聴き、恋をしていました。そこから文学研究へと向かった理由は、とても私的な事情が含まれることなので省略しますが、そういう意味で僕はいまでも文学作品を、ある種の思索に自分を導いてくれる「思想書」として読解しているのだと思います。こうした読み方は、文学研究者として長所にも短所にもなっていると自己認識しています。

### Q3 お茶大生へメッセージをお願いします

ようやく対面の授業が再開されました。僕は古い人間なのかもしれませんが、キャンパスでどうでもいい雑談をしたり、絶対に将来の役に立たないであろうサークルに入ったり、図書館で1日中寝ていたりする経験が、ある年齢の人びとにとって破格に重要な価値を持つものだと信じています。大学というのは、そういった世俗の効率性・有用性とは異なる価値観のあり方を肯定してくれる貴重な場所です。お茶大が皆さんにとって、そういう魅力的な大学になってくれることを心から願っています。

担当: 谷口 幸代  
基幹研究院人文科学系 准教授



### Q1 現職に就くまでの経緯を教えてください

高校生の頃から物理や計算が好きで、進学先を物理学科に決めました。しかし、大学で物理を学ぶと量子力学のような目に見えずに想像しづらいものが苦手だということに気が付きました。そこで、研究室は印象派物理学という、しずくや泡といった日常に近いものを扱う研究室(奥村研究室)を選びました。研究室に入ってから、実験が楽しく、研究することが好きになり大学院へ進学することに決めました。修士課程を経て、就職活動をする際には、物理の面白さを伝えられる学校の先生になるか、企業で研究をするかの2択で悩みました。就職活動をする中で企業の方々、学校現場の先生方、研究室の先輩方など様々な人と話していくうちに、私自身では気づいていなかった私自身の研究への想いを認識し、企業での研究を選びました。就職先は、「社員が生き生きと働いているか」を重視し、実際に企業の見学や座談会に積極的に参加し、採用担当者ではなく働いている人たちの表情をよく観察していました。現在の会社は、自由に働く制度も整っており、社

員も生き生きしていただけてだけでなく、学生時の研究内容とも近いものを感じたため、リコーで働くことに決めました。

### Q2 お茶大での経験は現在の仕事に活かしていますか?

現在はインクジェットに関する研究をしており、他の職種に比べて大学院で研究していた内容に近い分野なので、知識的な部分は大変助けられています。しかし、知識以上に、研究する過程で身につけた思考力・行動力が活かしていると思っています。例えば、授業の実験や研究時に培った、課題解決に向けた段取りや考察する力は、普段の業務で最も役立っていますし、これは分野や職種を問わず役立つ力なのではと考えています。また、お茶大で出会った方々は周りの話をよく聞き、課題解決力に優れていたため、その方々の行動を思い出しながら、チームでの業務に生かしています。

### Q3 在学生へのメッセージをお願いします

学生時の私は、学業や研究ばかりの学生と

いうよりは、サークル活動(ジャズダンス)を中心に動いているような学生でした。私は学生時にダンスに夢中になってよかったと思っています。学業以外の時間で得られる経験はたくさんあり、それが人生を豊かにしてくれると私は感じています。自分が気づかないだけで、その経験で得たことや考え方は周りに影響を与えています。ぜひ学業以外に夢中になれるものを見つけて、一度しかない学生生活を楽しんでほしいと思います。

また、私は現在の業務で、物理以外の専門性を身につけることを求められています。学生時には物理と教職の授業が中心だったので、あまり幅広い知識を身につけられたわけではありません。なので、学生の皆さんには時間が許す限りで可能であれば、自分が少しでも興味のある分野や、隣の学科の授業を聴講してみることをお勧めします。

最後になりますが、弊社のリクルータを経験して「お茶大生は遠慮しやすい」ということを感じたので、ぜひ困ったときにはOGを頼ってみてください。

担当: 工藤 和恵  
基幹研究院自然科学系 准教授

# 卒業生紹介

Interview

## 中里 葉奈 さん

株式会社リコー

### Profile

2016年3月、お茶の水女子大学理学部物理学科卒業。2018年3月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻物理学コース修了。2018年4月(株)リコー入社。現在に至る。



研究する過程で身につけた

思考力・行動力が活かしている

Hana Nakazato

# 附属学校園からの お知らせ

小さな子どもたちの好きなこと・もの ~夏編~



お茶の水女子大学附属いずみナーサリー(以下ナーサリー)は0~2歳児の  
小さな子どもたちが通う学内保育施設です。今号は夏号ということで、  
生まれて初めて~2度目、3度目の夏を過ごしてきた小さな子どもたちの姿を写真とともにご紹介します。



子どもたちは水が大好きです。小さな小さな水たまりも目ざとく見つけ、そっと指を入れてみます。雨上がりの水たまりを見つけると、まっしぐら。手で足でパシャパシャと。まるで水に命を吹きこんでいるかのようです。靴が濡れても顔に跳ね返ってきて気にせず心ゆくまで堪能します。コロナ禍以降大きなプールは出していないが、たらいやホース、ひしゃく、布団圧縮パックで

作った水クッションなどを使って、「気持ちいい」「楽しい」「面白い」「不思議だな」と、それぞれに五感で感じながら、水に親しみます。最初は水が苦手だった人も、お友だちが楽しそうに遊ぶ姿に、少しずつ緊張がほぐれ、「やってみようかな…」と手をのばし、水と仲良くなっています。

子どもたちは泥んこ遊びが大好きです。小さな

カップ、大きなバケツでトロトロ、ドロドロの泥作り。泥んこバケツのずっしりとした重量感、裸足になつてのピンヤリザラザ泥道歩き、とさまざまな感触を味わいます。泥汚れは洗濯してもなかなか取れず保護者の方にお手数をおかけしますが、「たくさん遊んでよかったね」と言ってくださることに感謝しながら、夏ならではの泥んこ遊びを満喫します。



その年その時の子どもたちと一緒に夏ならではの遊びを楽しんでいます ▲

子どもたちはお世話をするのが大好きです。ナーサリーでは春になると夏野菜の苗を植えます。「野菜の赤ちゃんだね」と土のベッドに優しく置いてそっと土をかけます。「おおきなあれ」とせせせと水やりをして(これ以上上げるとお腹こわしちゃうー根腐れするーからその位にしておこうかと言うこともしばしばです)、日々大きく、色づいていく野菜の成長を楽しみにしています。

収穫した後は試食。食べ慣れない野菜も目の前で調理をして、友だちと一緒にだと、思わずパクリと食べることも。  
そしてさわやかな秋風が吹き始める頃、暑い夏を共に過ごした子どもたちは、なんだかみんな、大きたくたくしく、そして近い間柄になっているように感じます。  
ナーサリーの前身である「いずみ保育所」は

2002年に誕生し、今年で20年になります。すべてのいのちの源の意をこめて、元学長の本田和子先生(児童学)が「いずみ」の名をつけてくださいました。みずみずしい生命の循環を支える「いずみ」。とても小さなナーサリーですが、見守ってくださる多くの方たちや、ささやかにふれあう人たちにとっても、風通しのよい小さなひだまりのような場所でありたいと思っています。

## 附属学校園での出来事 2022年 4月~6月

Jun. 6

- 1年諏訪合宿 ● 3年学力テスト ● 体育祭(半日)
- 附属 高等学校
- 附属 中学校
- 附属 小学校
- 附属 幼稚園
- いずみナーサリー
  - 災害用伝言ダイヤル試行
  - 避難訓練(地震) ● 個人面談
- 附属 小学校
  - 校外学習(1年) ● 引き取り訓練(1・3年)
  - 郊外園ジャガイモ掘り(1・6年)
  - 水泳学習(9月・4・6年)
  - 土曜参観(1・3・5年)
- 附属 中学校
  - 学年ごとの宿泊行事
  - 避難訓練 ● 期末テスト
- 附属 高校
  - 面談週間 ● 学校説明会(オンデマンド配信)
  - 3年学力テスト ● 自治会総会(オンライン)
  - 3年ケンブリッジ英検 ● 授業参観
  - 期末考査 ● 教育実習

May. 5

- 全学年引き取り避難訓練
- 親子で遊ぶ日(3歳児・5歳児)
- 附属 小学校
  - 校外学習(1・2・3・4年)
  - 教育実習(6月) ● 避難訓練
  - 運動会(午前:1・3・6年、午後:2・4・5年)
- 附属 中学校
  - 生徒総会
  - 保護者対象情報モラル講習会・学年別保護者会
  - 健康診断 ● 三味線ワークショップ
  - 教育実習(6月10日) ● 体育大会
- 附属 高校
  - 1年諏訪合宿 ● 3年学力テスト ● 体育祭(半日)

Apr. 4

- 避難訓練(地震) ● 野菜苗植え
- 附属 幼稚園
  - 進級式・入園式
  - 保護者会 ● 親子で遊ぶ日(4歳児)
  - PTA総会 ● 誕生会(4月生まれ)
- 附属 小学校
  - 離着任式・始業式 ● 入学式
  - 給食開始 ● 保護者会(各学年)
  - 避難訓練
  - 新入生を迎える会(オンライン)
  - 授業参観(2・4・6年)
  - 保護者総会・かがみ会総会・教育後援会総会
- 附属 中学校
  - 入学式・始業式・新任式
  - 新入生オリエンテーション
  - 情報モラル講習会 ● 歓迎会
  - PTA総会・教育後援会総会・保護者会
  - 全学避難訓練参加
- 附属 高校
  - 入学式
  - 始業式・着任式・対面式(オンライン)
  - 新入生オリエンテーション
  - 3年修学旅行(三重・京都・滋賀)
  - 避難訓練(地震)
  - 自治会選挙・歓迎会(オンライン)
  - PTA総会・教育後援会総会
  - 保護者会(全学年) ● 春季健康診断
- いずみナーサリー
  - 避難訓練(火災、不審者対応)
  - 在園児定期健康診断 ● 保護者会
- 附属 幼稚園
  - こどもの日の集い ● 健康診断
  - 遠足(小石川植物園) ● 3歳親子・4歳親子・5歳児誕生会(5月生まれ)



発行日 / 2022年7月11日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報担当

電話:03-5978-5105 FAX:03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>

本誌、お茶の水女子大学学報「Ochadai GAZETTE」は、本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University